

◆ 平成 29 年度 県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等による FD 活動（教育改善）計画一覧

実施主体	コーディネーター	日時	実施場所	実施内容
人間文化学部 国際文化学科	栗原 武士 高松 亮太 鄭 銀志	平成 29 年 7 月 4 日 (火) 14:40~16:10	1212 会議室	<p>テーマ 卒業論文指導体制の改善</p> <p>実施目的 国際文化学科では、卒業論文を必修として課しているが、従来その指導方法や成績評価は各指導教員（および副査の教員）にほぼ一任されており、定まった評価基準が存在しなかった。公平かつ適正な評価を行うためにも、また学生自らが到達すべき目標を見定め、学修成果を向上させるためにも、卒業論文指導体制の改善は急務と考えられる。本 FD は、このことを各教員が意識化し、学科全体として教育の質的向上を目指そうとするものである。</p> <p>実施内容 (キーワード：卒業論文指導体制・ループリック・学修成果) 学科教員 3 名が卒業論文指導の実践報告を行い、その情報を教員全員で共有したうえで、意見交換を行う。また、卒業論文指導体制の見直しを目的として作成されたループリック、ならびに卒業論文中間報告会ワークシートの活用方法に関する説明を行い、卒業論文指導体制の改善に向けた具体的方策を共通認識とする。</p>
人間文化学部 国際文化学科	鈴木 康之 柳川 順子	平成 29 年 9 月 19 日 (火) 10:40~12:10	1215 会議室	<p>テーマ 主専攻・副専攻プログラムの具体化—「国際文化学入門」開始に向けて—</p> <p>実施目的 平成 29 年度入学生 1 年次後期に始まる、学科基礎の必修科目「国際文化学入門」は、平成 28 年度に確定した主専攻プログラム「英米文化」「日本文化」「東アジア文化」、副専攻プログラム「人間理解・国際理解」「比較文化」「比較言語」を骨格とする。学生には、前半で 3 つの主専攻プログラムから 1 つを選ばせ、後半で 3 つの副専攻プログラムから 1 つを選んで履修させるが、学生の主体的な学修意欲を引き出しつつ適切な選択に導くためには、教員が科目間の連携を意識しながら、各プログラムの内容を更に具体化する必要がある。本 FD は、「国際文化学入門」初回の授業で、学生たちに具体的な選択の指針を示すことを目指して設けるものである。</p> <p>実施内容 (キーワード：「国際文化学入門」、教育プログラム、科目間連携) 学科の全教員が、自身の担当するセット科目（論・基礎演習・演習）について、連携する科目名を挙げながら、それぞれのプログラムの中でどのような役割を果たすのか、具体的教育内容を示す。書面、及び口頭発表の形式により、学科を構成する科目の相互関連性を全員が共有する。</p>
人間文化学部 健康科学科	栢下 淳 谷本 昌太	・随時 ・後期 第 3 火曜日 学科会議終了後	会議室等	<p>テーマ 健康科学科における組織的な教育の実質化</p> <p>実施目的 健康科学科における組織的教育体制の強化を目的として、管理栄養士臨地実習と栄養教諭関連科目のコースカタログ及びシラバスを、担当教員で構成する WG で再点検し、客員教授と連携して組織的な教育の実質化を目指す。</p> <p>実施内容 (キーワード：組織的教育、情報共有、点検) 前期において管理栄養士臨地実習と栄養教諭関連科目のコースカタログ及びシラバスを、担当教員で構成する WG（学外実習 WG）で再点検し、改善点等を検討し修正を行なう。点検、修正に際しては、客員教授とも連携し、組織的に実施する。 今年度前期に修正したコースカタログ及びシラバスを学科会議において報告し、学科内で内容を共有し、管理栄養士臨地実習と栄養教諭関連科目以外のコースカタログ及びシラバスの改善・修正に繋げる。</p>

<p>経営情報学部 経営学科</p>	<p>平野 実</p>	<p>学科会議実施時 (毎月第2水曜・4 限)</p>	<p>1212 会議室</p>	<p>テーマ ゼミ指導方法の改善 実施目的 経営学科は、卒業論文作成を必須とする「経営学専門演習Ⅰ・Ⅱ（以下、ゼミ）」を、専門教育の集大成に位置づけている。そこでの学修内容をさらに充実させ、チームマネジメントを含めた指導方法を改善することにより、質の高い専門教育を学生に提供し、学生の専門教育、さらに学生生活に対する満足度も向上させる。 実施内容 (キーワード：ゼミ，参加型学修，行動型学修) 毎月1回の学科会議に合わせて、1回あたり1～2名の教員がゼミでの学修内容や指導方法について1名につき7分程度で報告する。特に少人数教育の特色を活かした参加型学修および行動型学修の実態、学生とのコミュニケーションの取り方などを報告する。これに続いて、1名の報告に対して5～7分程度の質疑応答を行い、各教員が参考とすべき点、工夫や改善が望まれる点などについて、全教員で情報・意見を交換・共有する。</p>
<p>経営情報学部 経営情報学科</p>	<p>陳 春祥 佐々木 宣介 重丸 伸二 広谷 大助</p>	<p>前期は火曜日5限， 後期は不定期に実施 する。</p>	<p>講義室， 会議室等</p>	<p>テーマ 学修意欲の促進につなぐ初年次専門研究紹介の取組 実施目的 経営情報学科では、平成29年度に初年次導入科目の見直しを行ない、1年次前期の必修科目として「経営情報学研究序論」を開講した。この科目は、本学科の持つ3つの学問体系（経営科学系，経営情報系，情報処理系）で学修する科目群と、3，4年次で取り組む経営情報学専門演習（卒業研究）との間の繋がりを予め把握することにより、学修の方向性を明確にし、学修のモチベーションを高めることを目的としており、専任教員が中心に、各自受け持ちの科目または、卒業研究で取り組む内容をベースに専門課程，専門領域及び最先端の研究等を紹介する。それにより、学生が4年間の学修内容を縦型的に把握して、問題意識を持つことを狙いとしている。さらに、学生がより能動的（アクティブ）に意欲的に授業の受講に臨むことが期待できるとともに、教員側も学生からのフィードバック情報を把握して今後の授業へ活かすことにもつながる。 実施内容 (キーワード) 初年次導入教育，組織的教育，アクティブラーニング 前期では毎週の火曜日5限に、各回1名の教員が1時間程度で研究紹介をし、その後、学生に対して、20～30分程度で振り返りシートを用いて、理解度の確認、今回のテーマに関する関心事、今後の学修へ活かす点などについて問う。 学生からの質問、感想などは全教員間で共有し、振り返りを行うこととしている。また、全体の授業が終了した後、学科全体に対して本取組の目標設定、運営方法、教員への浸透状況などを振り返り、横断的、組織的な教育強化を図る</p>
<p>生命環境学部 生命科学科</p>	<p>五味 正志</p>	<p>未定</p>	<p>未定</p>	<p>テーマ 大学基礎セミナーの実施方法の改善についての検討 実施目的 一昨年度から、初年次導入科目の「フレッシュマンセミナー」が「大学基礎セミナー」に変更され、それに伴い能動的学修に必要な技能修得が求められている。このことから、一昨年度から大学基礎セミナーの実施方法を変更したが、事後のアンケート調査によりいくつかの問題点が明らかになった。本FD活動では、昨年度の結果を踏まえ、実施方法の改善を行なうと同時に、今後の実施方法について検討することを目的とする。 実施内容 (キーワード：研究室訪問，ノートテイキング，議論) 昨年度から、食品資源科学コースと応用生命科学コースで、少し異なった方式で実施することにした。食品資源科学コースでは、教員による分野説明についてのノートテイキングと疑問点の調査、</p>

				<p>応用生命科学コースでは、教員による課題説明とその調査で、どちらも研究室訪問の前と後にレポートを提出させ、訪問時の議論を踏まえて学生の理解がどのように深まったのか検証する。本年度はこれまでのアンケート調査に基づいて修正を加えて実施する。また、引き続きアンケート調査を実施し、今後の実施方法について、次年度に向けてさらなる改善の検討を行う。</p>
<p>生命環境学部 環境科学科</p>	<p>西村 和之 三苦 好治 原田 浩幸</p>	<p>(1) 前期中 (2) 後期開始後早い時期に (3) (2)の後2～3ヶ月 (4) 上記(3)と同時期から、2月末までを予定。</p>	<p>環境科学科の実習室、実験室、ALによる出先、及び学科構成員の研究室内。</p>	<p>テーマ アウトカムズに直結する科目のルーブリック作成とその一般化への検討 実施目的 アウトカムズに直結する科目（環境科学科の場合：大学基礎セミナー＜1年生前期＞→環境科学セミナーⅠ＜1年生後期＞→環境科学セミナーⅡ＜2年生前期＞→各学年の実験・実習等→3年生中間発表会＜3年生後期＞→4年生中間報告＜4年生後期始め＞→4年生卒論発表会）について、担当教員によるルーブリックを作成し、その課題等を検討する。 次に、上記で作成したルーブリックを参考に、学科専門科目に利用可能な共通フォーマット案を作成し、学科内で仮運用し、課題などを整理し、次年度以降の本格運用の準備を行う。 実施内容（キーワード：ルーブリック、アウトカムズ） 1) アウトカムズに直結する科目のルーブリックを科目担当教員が作成する。 2) 上記1)で作成されたルーブリックを参考に、学科長主導で、教務/FDer/学科WG/アドバイザーからなる調整会議で、環境科学科に適したルーブリックの要素や構成を検討し、ひな形を作成する。 3) 特に、環境科学セミナーⅠにおいては、外部講師の招聘あるいは見学会など行う。 4) ルーブリックのひな形（案）の電子データ化を図り、仮運用する（2～3の科目について準備する）。これにより、昨年度作成したルーブリックとの比較や向上点を整理し、修正する。 なお、新たなルーブリックは、学生からの評価を直接書き込みができるような形式とし、HP上での運用が可能な形式とする。</p>
<p>保健福祉学部</p>	<p>細羽 竜也 手島 洋</p>	<p>平成 29 年 6 月 9 日 (金) 13:00～14:30</p>	<p>4101 講義室</p>	<p>テーマ 視覚障害学生への学修上の配慮の事例研究～合理的配慮をふまえた対応を学ぶ～ 実施目的 平成 28 年度から障害者差別解消法が施行されている。現在、本学でもその対象となる学生が入学している状況である。学生として在籍する障害のある学生に対する支援の具体的内容や課題について、全国でも先進的に障害学生支援の専門職員を設置してきた関西大学での実践について研修を受ける。 実施内容（キーワード：障害学生支援） 講師として、関西大学 学生相談・支援センター コーディネーター 藤原隆宏先生をお迎えし、保健福祉学部教員に対して研修会を実施する。</p>
<p>保健福祉学部 看護学科 教育課程検討会</p>	<p>岡田 淳子</p>	<p>定例会議：毎月 1 回</p>	<p>3418 会議室</p>	<p>テーマ 「地域課題解決型・創生」を担う保健医療福祉人材育成のための新カリキュラムの検討 実施目的 文部科学省から本年 10 月に看護教育モデル・コア・カリキュラムが提案され、平成 31 年より改正されたカリキュラムで教育を開始することになる。このことより、看護教育のコアとなる概念に関する最新の動向を探り、本学基本理念を主軸として教育課程を提案する必要がある。このことは、看護学科教員全員が協同して取り組む事案であり、新カリキュラムの素案を作成する。 実施内容（キーワード：基本理念、看護教育モデル・コア・カリキュラム）</p>

				<p>専門知識を得るための研修会開催や他大学の動向調査 看護学科における現行カリキュラムの再検討</p>
<p>保健福祉学部 看護学科</p>	<p>青井 聡美</p>	<p>テーマⅠ 年1回 (平成29年4月21日(金)14:00～16:20) テーマⅡ 毎月1回</p>	<p>テーマⅠ 4102 会議室 テーマⅡ 2210 会議室</p>	<p>テーマ テーマⅠ：教員と実習指導担当者との情報共有と教育方法の改善 テーマⅡ：臨地実習教育の充実</p> <p>実施目的 教員と実習指導担当者間あるいは教員同士で情報交換を行い、臨地実習における学生の現状と課題を把握、共有し、円滑な臨地実習の運営と看護教育の質の向上を図る。</p> <p>実施内容 (キーワード：臨地実習、教育方法、情報共有) テーマⅠ：実習指導担当者協議会を開催し、情報共有とグループ討論を実施する。今年度は「教員と実習指導者との連携～配慮が必要な学生にどう対応するか」というテーマでグループ討論を実施する。 テーマⅡ：臨地実習に関わる情報を教員間で共有し、学生指導や実習環境についての検討を行う。また、年間実習計画の調整および見直しを実施する。</p>
<p>保健福祉学部 理学療法学科</p>	<p>塩川 満久</p>	<p>【テーマⅠ】 前期： 毎週水曜 14:40～ 後期： 毎週水曜 9:00～ 【テーマⅡ・Ⅲ】 月1回開催予定で、 日程は調整中</p>	<p>2416 会議室</p>	<p>テーマ I 学生動向を把握する・共有する II 講義の形態・方向性を吟味する III 各教員の研究領域の紹介</p> <p>実施目的 テーマⅠ：各学生、特に配慮が必要と思われる学生について情報を共有することにより、指導、援助の一貫化を図る。 テーマⅡ：学生の気質や国家試験の出題傾向の変化等に対応しうる講義、学生指導のあり方について検討していく。 テーマⅢ：各教員の研究領域における最近の成果を共有することを通じ、各々の研究・教育能力の向上を図る。</p> <p>実施内容 (キーワード：学生指導、教育の工夫) テーマⅠは、毎週水曜日に開催される学科会議の議題として実施される。 テーマⅡは、各種教授法実践の紹介、医学教育学会等に参加された先生による伝達講習会など、 テーマⅢは、抄読会や学会発表予演などを通じて行われる</p>
<p>保健福祉学部 作業療法学科</p>	<p>高木 雅之</p>	<p>月2回隔週水曜日 12時半～</p>	<p>2406 会議室</p>	<p>テーマ 作業療法士養成教育内容の組織的改善</p> <p>実施目的 当学科では学生への学修支援や教員間の連携が不足し、教育の質保証の1つの目安となる国家試験合格率では、十分な成果を上げられていない。さらに、昨年改定された世界作業療法士連盟の教育最低基準や今後改定が予想される厚生労働省の養成施設指定規則に沿って、継続的に教育内容を改善していく必要がある。そこで平成29年度は、生涯にわたり学び続ける作業療法士の育成を目指し、関連するすべての教育内容・方法を組織的に見直し、改善を図る。</p> <p>実施内容 (キーワード：教育内容の共有、組織的改善、国家試験) ①チューターによる入学時からの学修支援方法の検討・実施 初年次からチューターが学生の学修状況を積極的に把握し、学修を促進していく方法を検討し実施する。</p>

				<p>②国家試験や作業療法の動向を見据えた教育内容の改善 国家試験の傾向や作業療法の動向を共有し、各教員の教育内容に反映させる。</p> <p>③実習地との連携の強化と実習形態の改善 メーリングリストや実習指導者会議を通じて実習地との連携を強化し、実習内容の充実を図る。</p> <p>④組織的な4年次国家試験対策 学科全教員が国家試験全員合格に向けてそれぞれの役割を担い、4年次学生の試験勉強をサポートできる体制を構築する。</p> <p>⑤最新の研究エビデンスの共有 作業療法関連領域における最新の研究成果を共有し、教育内容に取り入れていくと共に、各教員の研究・教育能力の向上を図る。</p>
保健福祉学部 コミュニケーション障害 学科	細川 淳嗣	5/31, 6/9, 7/26, 9月未定, 11月未定, 12月未定, 1月未定, 2月未定 原則として毎月1回 水曜日 12:15-13:00 (未定月については、 発表担当教員と日程 を調整の上決定す る)	1309・1310 演習室	<p>テーマ 年間を通じた教育力向上のためのセミナー実施</p> <p>実施目的 各教員が行っている研究・教育活動について学科教員などの間で共有を行うことにより、 た、各教員が実施・参加したFDに関する研修などの内容を共有することで、学生教育の質向上を 的とする。</p> <p>実施内容 (キーワード：研究活動、教育活動、伝達)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員が取り組んでいる研究活動の紹介と議論 2. 教員が取り組んでいる教育改善活動の紹介と共有 3. FDに関連した学外等で実施された研修などの伝達
保健福祉学部 人間福祉学科	細羽 竜也	(1) 授業公開： 授業を公開する教 員の申し出があっ た期日とする。 (2) 伝達講習会・ 学修支援アドバイ ザーとの検討会： 6月以降、実施予 定。	三原キャン パス内	<p>テーマ 社会福祉士・精神保健福祉士養成教育の内容の充実を図る</p> <p>実施目的 平成29年度人間福祉学科では、「社会福祉士・精神保健福祉士養成教育の内容の充実を 図る」ことをテーマに、FD活動を実施することにした。具体的には、従来から実施している実習 教育の会議を通じた運営の精緻化・効率化をより一層推進するとともに、各教員の講義・演習科目 の技術向上をめざして、平成25年度から実施している授業のピアレビュー事業（授業公開）を今 年度も継続することにした。今年度は、昨年度よりも多くの教員の参加を目標としている。また今 年度から、(1) アクティブラーニングをソーシャルワーク教育に導入するための研修に参加し、学 科内に伝達研修としてフィードバックする企画や、(2) AP事業推進部門で活躍している学修支援 アドバイザーとの精神保健福祉援助演習のシラバス等の検討会を行う予定としている。</p> <p>実施内容 (キーワード：ピアレビュー、アクティブラーニング、学修支援アドバイザー)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 授業公開 平成29年度5月の学科会議で以下の取り組みを行うことが合意されている。 ① 各教員が年度中に1回以上、授業公開を実施する。 ② 公開された他の教員の授業に、年度中に2回以上参加し、ミニッツペーパー（授業評価）を 教員に提出する。 (2) アクティブラーニングの伝達講習会（人間福祉学科内） (3) 学修支援アドバイザーとの専門授業のシラバス等検討会